

ボーダーフリー大学の量的規模に関する基礎的研究

葛 城 浩 一 (大学教育基盤センター准教授)
宇 田 響 (教育学部 4 年)

1. はじめに

「ボーダーフリー大学」とは「受験すれば必ず合格するような大学、すなわち、事実上の全入状態にある大学」¹⁾ のことである。ボーダーフリー大学に相当するであろう定員割れを抱えた大学は、私立大学全体の 5 割近くに達しており、定員充足率 50% 未満の大学は 5 % を超えることもある (日本私立学校振興・共済事業団広報、2012)。定員割れの結果、募集停止の判断を迫られる大学も少なくなく、これまでに 12 大学が募集停止に至っている。18 歳人口が減少に転じる 2018 年以降、定員割れの深刻な大学や募集停止の判断を迫られる大学は急増していくものと考えられる。

こうしたボーダーフリー大学は、入試による選抜機能が働かないため、基礎学力や学習習慣、学習への動機づけの欠如といった、早ければ小学校段階から先送りされてきた学習面での問題を有する学生を多く受け入れている。そのため、そこには日本の高等教育 (特に大学) が抱えている問題が凝縮されて顕在化していると考えられる。今後の日本の高等教育のあり方を考える上でも、ボーダーフリー大学を研究対象とすることは非常に重要であるといえるだろう。

しかし、ボーダーフリー大学が研究対象とされることはこれまでほとんどなかった。なぜなら、山田 (2009) も指摘するように、「(日本の) 大学研究の視点は、旧来のエリート大学、すなわち現在の研究大学を中心にしたもの」 (山田、2009、33 頁、括弧内は筆者による) だからである。そのため、ボーダーフリー大学については研究蓄積が十分でないだけでなく、基礎的情報すら十分に整理されていない状態にある。すなわち、ボーダーフリー大学に所属する学生や教員の量的規模すら明確には把握されていないのである。

そこで本稿では、定員充足率や偏差値を手がかりとして、ボーダーフリー大学及びそこに所属する学生や教員の量的規模に関する基礎的情報を整理したい。それらを通して、今後のボーダーフリー大学研究に資する基礎的知見を提供したいと考える。

2. 研究の方法

定員充足率を手がかりとして、ボーダーフリー大学及びそこに所属する学生や教員の量的規模に関する基礎的情報を整理する上で、まず留意しておきたい点がある。すなわち、複数の学部からなる大学では、ある学部では定員充足していなくても、別の学部では定員充足している場合があるという点である。この場合、大学全体でみた場合に定員充足していなければボーダーフリー大学であると考えられることも可能ではある。しかしそれでは、ボーダーフリー大学の実態を見誤る可能性があると考え、

本稿では学部ごとにみていくことにしたい。この点を考慮して、以下では「ボーダーフリー大学・学部」という表記を用いることとする。

本稿で用いるのは、朝日新聞出版『大学ランキング』である。まずはこれを用いて、定員充足率を把握することから始める。具体的には、2012～15年版の『大学ランキング』に掲載されている入学定員数を足し合わせた数を、2015年版の『大学ランキング』に掲載されている在籍学生数で除することで、定員充足率を算出する²⁾。そして、算出された定員充足率を手がかりとして、ボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握したい（第3節）。

なお、この算出方法では編入学の学生が考慮されないため、定員充足率を実態よりも高く見積もってしまう可能性があることには留意しておきたい。ある特定の年度の入学定員数をその年度の入学者数で除するという算出方法であればこうした可能性は排除できるのだが、『大学ランキング』に入学者数を掲載していない大学・学部は少なくない³⁾ため、現時点では先述の算出方法がより適当であると判断した。

分析対象とするのは、2012年版の『大学ランキング』で「医・歯・薬・看護・保健」及び「農・水産」以外のカテゴリに掲載されている私立大学の学部である。「医・歯・薬・看護・保健」及び「農・水産」といったカテゴリに掲載されている学部を分析対象から除外したのは、これらのカテゴリには4年制と6年制の学部が混在しているだけでなく、4年制と6年制の学科が混在している学部⁴⁾も散見されるため、正確な定員充足率を算出することができないと判断したからである。また、国公立大学を分析対象から除外したのは、国公立大学では定員充足状況が比較的良好であることに加え、入学段階では特定の学部の入学定員数が示されていない学部⁵⁾が散見されるため、正確な定員充足率を算出することができないと判断したからである。『大学ランキング』に掲載されている学部名が途中で変更されている学部も散見されるが、そうした学部については大学のホームページを参照し、「従来の学部を複数の学部にも再編」、あるいは「従来の学部及び学科を改組」といった条件に該当する場合には、分析から除外することとした。したがって、第3節の分析対象となるのは、これらの条件に該当する105学部を除く1,190学部⁶⁾である。なお、分析から除外した学部数が決して少なくないため、それらを抜きにしてボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握しようとするならば、それを実態よりも少なく見積もってしまう可能性があることには留意しておきたい。

さて、このように、定員充足率の算出には多くの手続きを要するため、端的に定員充足状況を判断することは困難である。そこで、本稿では、定員充足状況との相関が高い偏差値を手がかりとして、端的に定員充足状況を判断する際の基準を明らかにするとともに、その基準でみた場合のボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握したい（第4節）。なお、偏差値は『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」に基づくものである。

分析対象とするのは、第3節と同様、2015年版の『大学ランキング』で「医・歯・薬・看護・保健」及び「農・水産」以外のカテゴリに掲載されている、偏差値49以下の私立大学の学部である。したがって、第4節の分析対象となるのは675学部⁷⁾である。

（葛城浩一）

3. 定員充足率

3-1. 学部数

本節では、定員充足率を手がかりとして、ボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握したい。まず、定員充足状況別に学部数を示したのが表1である。なお、上段に示しているのは各区分に該当する学部数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する学部数を累計した学部数である（表2についても同様に表記）。また、下段に示しているのは中段に示している値（学部数（累計））が日本の大学の総学部数（昼間のみ、2,323学部）⁸⁾に占める割合である。

この表からもわかるように、定員充足率100%未満の学部は300学部を大きく超えており、これは日本の大学の総学部数（昼間のみ）の15%以上を占めている。また、定員充足率75%未満の学部はその半数近くを占めている。なお、定員充足率50%未満の学部が日本の大学の総学部数に占める割合は1%にも満たない⁹⁾ものの一定数存在していること、また、その中には定員充足率が33.6%と極めて低い学部もあることには留意しておきたい。

表1 定員充足状況別学部数

	50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
学部数	19	148	195	762	66
学部数(累計)	19	167	362	1,124	1,190
総数に占める割合(累計)	0.8%	7.2%	15.6%	48.4%	51.2%

表2 定員充足状況別学部数（専門分野別）

		50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
法・経済・経営・商	学部数	5	44	43	221	13
	学部数(累計)	5	49	92	313	326
	総数に占める割合(累計)	1.5%	15.0%	28.2%	96.0%	100.0%
人文・外国語	学部数	4	29	40	168	21
	学部数(累計)	4	33	73	241	262
	総数に占める割合(累計)	1.5%	12.6%	27.9%	92.0%	100.0%
社会・国際	学部数	7	24	35	83	7
	学部数(累計)	7	31	66	149	156
	総数に占める割合(累計)	4.5%	19.9%	42.3%	95.5%	100.0%
教育・体育	学部数	0	4	18	51	10
	学部数(累計)	0	4	22	73	83
	総数に占める割合(累計)	0.0%	4.8%	26.5%	88.0%	100.0%
学際・複合	学部数	1	12	10	43	3
	学部数(累計)	1	13	23	66	69
	総数に占める割合(累計)	1.4%	18.8%	33.3%	95.7%	100.0%
理・工・理工	学部数	0	14	16	121	10
	学部数(累計)	0	14	30	151	161
	総数に占める割合(累計)	0.0%	8.7%	18.6%	93.8%	100.0%
生活科学	学部数	0	6	18	54	0
	学部数(累計)	0	6	24	78	78
	総数に占める割合(累計)	0.0%	7.7%	30.8%	100.0%	100.0%
芸術	学部数	2	16	15	31	2
	学部数(累計)	2	18	33	64	66
	総数に占める割合(累計)	3.0%	27.3%	50.0%	97.0%	100.0%

さて、定員充足率の低さには専門分野による違いがあると考えられるが、定員充足率が低いのはどのような専門分野なのだろうか。表1の結果を専門分野別に示したのが表2である。なお、下段に示しているのは中段に示している値（学部数（累計））が、2015年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」の当該カテゴリにおける、定員充足率を算出することができた私立

大学の総学部数¹⁰⁾に占める割合である。

この表からもわかるように、定員充足率 100%未満の学部が実数として多いのは、圧倒的に「法・経済・経営・商」系であるが、総学部数に占める割合が高いのは、「芸術」系や「社会・国際」系である。なお、「芸術」系については、このカテゴリに掲載されている学部は複数のカテゴリに掲載されている学部が多いため、実態よりも高く見積もられている可能性があることには留意しておきたい。定員充足率 75%未満でみた場合でも同様の傾向がみられるが、総学部数に占める割合については、「学際・複合」系は「社会・国際」系とほぼ同水準にある。なお、定員充足率 50%未満でみた場合には、実数として多いのも、総学部数に占める割合が高いのも、「社会・国際」系である。

3-2. 学生数

次に、定員充足状況別に学生数を示したのが表 3 である。なお、上段に示しているのは各区分に該当する学生数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する学生数を累計した学生数である（表 4 についても同様に表記）。また、下段に示しているのは中段に示している値（学生数（累計））が日本の大学の総学生数（昼間のみ、2,537,533 人）¹¹⁾に占める割合である。

この表からもわかるように、定員充足率 100%未満の学部には所属する学生は 20 万人を超えており、これは日本の大学の総学生数（昼間のみ）の 1 割近くを占めている。また、定員充足率 75%未満の学部には所属する学生はその 3 分の 1 以上を占めている。なお、定員充足率 50%未満の学部には所属する学生が日本の大学の総学生数に占める割合はわずか 0.2%に過ぎないものの、5,000 人以上も存在していることには留意しておきたい。

表 3 定員充足状況別学生数

	50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
学生数	5,546	68,436	138,185	1,318,141	118,589
学生数(累計)	5,546	73,982	212,167	1,530,308	1,648,897
総数に占める割合(累計)	0.2%	2.9%	8.4%	60.3%	65.0%

表 4 定員充足状況別学生数（専門分野別）

		50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
法・経済・経営・商	学生数	1,556	24,677	32,867	457,885	24,794
	学生数(累計)	1,556	26,233	59,100	516,985	541,779
	総数に占める割合(累計)	0.3%	4.8%	10.9%	95.4%	100.0%
人文・外国語	学生数	947	11,817	30,648	279,679	42,221
	学生数(累計)	947	12,764	43,412	323,091	365,312
	総数に占める割合(累計)	0.3%	3.5%	11.9%	88.4%	100.0%
社会・国際	学生数	2,432	8,748	22,502	118,237	8,208
	学生数(累計)	2,432	11,180	33,682	151,919	160,127
	総数に占める割合(累計)	1.5%	7.0%	21.0%	94.9%	100.0%
教育・体育	学生数	0	1,604	8,714	57,642	18,752
	学生数(累計)	0	1,604	10,318	67,960	86,712
	総数に占める割合(累計)	0.0%	1.8%	11.9%	78.4%	100.0%
学際・複合	学生数	158	5,535	7,177	59,809	6,372
	学生数(累計)	158	5,693	12,870	72,679	79,051
	総数に占める割合(累計)	0.2%	7.2%	16.3%	91.9%	100.0%
理・工・理工	学生数	0	7,747	15,339	258,178	16,908
	学生数(累計)	0	7,747	23,086	281,264	298,172
	総数に占める割合(累計)	0.0%	2.6%	7.7%	94.3%	100.0%
生活科学	学生数	0	2,628	12,371	60,716	0
	学生数(累計)	0	2,628	14,999	75,715	75,715
	総数に占める割合(累計)	0.0%	3.5%	19.8%	100.0%	100.0%
芸術	学生数	453	6,278	8,567	55,557	1,334
	学生数(累計)	453	6,731	15,298	70,855	72,189
	総数に占める割合(累計)	0.6%	9.3%	21.2%	98.2%	100.0%

前項と同様に、表3の結果を専門分野別に示したのが表4である。なお、下段に示しているのは中段に示している値（学生数（累計））が、2015年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」の当該カテゴリにおける、定員充足率を算出することができた私立大学の総学生数¹²⁾に占める割合である。

この表からもわかるように、定員充足率100%未満の学部には所属する学生が実数として多いのは、圧倒的に「法・経済・経営・商」系であるが、総学生数に占める割合が高いのは、「芸術」系や「社会・国際」系、「生活科学」系である。なお先述のように、「芸術」系については実態よりも高く見積もられている可能性があることには留意しておきたい。また、定員充足率75%未満でみた場合でも、数として多いのは圧倒的に「法・経済・経営・商」系であるが、総学生数に占める割合が高いのは、「芸術」系や「学際・複合」系、「社会・国際」系である。なお、定員充足率50%未満でみた場合には、実数として多いのも、総学生数に占める割合が高いのも、「社会・国際」系である。

3-3. 教員数

最後に、定員充足状況別に教員数を示したのが表5である。なお、上段に示しているのは各区分に該当する教員数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する教員数を累計した教員数である（表6についても同様に表記）。また、下段に示しているのは中段に示している値（教員数（累計））が日本の大学の総教員数（学部には所属する教員のみ、92,989人）¹³⁾に占める割合である。

表5 定員充足状況別教員数

	50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
教員数	455	3,987	5,938	35,620	3,188
教員数(累計)	455	4,442	10,380	46,000	49,188
総数に占める割合(累計)	0.5%	4.8%	11.2%	49.5%	52.9%

表6 定員充足状況別教員数（専門分野別）

		50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
法・経済・経営・商	教員数	119	1,057	1,127	9,049	523
	教員数(累計)	119	1,176	2,303	11,352	11,875
	総数に占める割合(累計)	1.0%	9.9%	19.4%	95.6%	100.0%
人文・外国語	教員数	89	768	1,406	8,088	1,155
	教員数(累計)	89	857	2,263	10,351	11,506
	総数に占める割合(累計)	0.8%	7.4%	19.7%	90.0%	100.0%
社会・国際	教員数	182	577	981	3,147	228
	教員数(累計)	182	759	1,740	4,887	5,115
	総数に占める割合(累計)	3.6%	14.8%	34.0%	95.5%	100.0%
教育・体育	教員数	0	129	441	1,930	575
	教員数(累計)	0	129	570	2,500	3,075
	総数に占める割合(累計)	0.0%	4.2%	18.5%	81.3%	100.0%
学際・複合	教員数	20	327	306	1,665	142
	教員数(累計)	20	347	653	2,318	2,460
	総数に占める割合(累計)	0.8%	14.1%	26.5%	94.2%	100.0%
理・工・理工	教員数	0	517	689	8,497	469
	教員数(累計)	0	517	1,206	9,703	10,172
	総数に占める割合(累計)	0.0%	5.1%	11.9%	95.4%	100.0%
生活科学	教員数	0	174	542	2,058	0
	教員数(累計)	0	174	716	2,774	2,774
	総数に占める割合(累計)	0.0%	6.3%	25.8%	100.0%	100.0%
芸術	教員数	45	480	446	2,041	96
	教員数(累計)	45	525	971	3,012	3,108
	総数に占める割合(累計)	1.4%	16.9%	31.2%	96.9%	100.0%

この表からもわかるように、定員充足率 100%未満の学部には所属する教員は 1 万人を超えており、これは日本の大学の総教員数（学部には所属する教員のみ）の 1 割以上を占めている。また、定員充足率 75%未満の学部には所属する教員はその 4 割以上を占めている。なお、定員充足率 50%未満の学部には所属する教員が日本の大学の総教員数に占める割合はわずか 0.5%に過ぎないものの、500 人近くは存在していることには留意しておきたい。

これまでと同様に、表 5 の結果を専門分野別に示したのが表 6 である。なお、下段に示しているのは中段に示している値（教員数（累計））が、2015 年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」の当該カテゴリにおける、定員充足率を算出することができた私立大学の総教員数¹⁴⁾に占める割合である。

この表からもわかるように、定員充足率 100%未満の学部には所属する教員が実数として多いのは、「法・経済・経営・商」系や「人文・外国語」系であるが、総教員数に占める割合が高いのは、「社会・国際」系や「芸術」系である。なお先述のように、「芸術」系については実態よりも高く見積もられている可能性があることには留意しておきたい。また、定員充足率 75%未満でみた場合では、実数として多いのは「法・経済・経営・商」系であるが、総教員数に占める割合が高いのは、「芸術」系や「社会・国際」系、「学際・複合」系である。なお、定員充足率 50%未満でみた場合には、実数として多いのも、総教員数に占める割合が高いのも、「社会・国際」系である。

4. 偏差値

前節では、定員充足率を手がかりとして、ボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握してきた。しかし、先述のように、定員充足率の算出には多くの手続きを要するため、端的に定員充足状況を判断することは困難である。そこで、本節では、定員充足状況との相関が高い¹⁵⁾偏差値を手がかりとして、端的に定員充足状況を判断する際の基準を明らかにするとともに、その基準でみた場合のボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握したい。

4-1. 学部数

まず、偏差値別に学部数を示したのが表 7 である。なお前節と同様に、上段に示しているのは各区分に該当する学部数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する学部数を累計した学部数である（表 8 についても同様に表記）。また、下段に示しているのは中段に示している値（学部数（累計））が日本の大学の総学部数（昼間のみ、2,323 学部）に占める割合である。

表 7 偏差値別学部数

	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
学部数	11	15	24	46	63	80	130	98	104	104
学部数(累計)	11	26	50	96	159	239	369	467	571	675
総数に占める割合(累計)	0.5%	1.1%	2.2%	4.1%	6.8%	10.3%	15.9%	20.1%	24.6%	29.1%

表 8 偏差値別学部数（専門分野別）

		40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
法・経済・経営・商	学部数	6	6	8	20	26	33	34	28	18	17
	学部数(累計)	6	12	20	40	66	99	133	161	179	196
	総数に占める割合(累計)	1.7%	3.4%	5.7%	11.5%	18.9%	28.4%	38.1%	46.1%	51.3%	56.2%
人文・外国語	学部数	0	4	1	6	3	11	24	12	24	28
	学部数(累計)	0	4	5	11	14	25	49	61	85	113
	総数に占める割合(累計)	0.0%	1.5%	1.8%	4.0%	5.1%	9.1%	17.9%	22.3%	31.0%	41.2%
社会・国際	学部数	1	3	3	7	11	7	21	18	14	11
	学部数(累計)	1	4	7	14	25	32	53	71	85	96
	総数に占める割合(累計)	0.6%	2.4%	4.1%	8.3%	14.8%	18.9%	31.4%	42.0%	50.3%	56.8%
教育・体育	学部数	0	0	1	3	4	4	11	6	11	12
	学部数(累計)	0	0	1	4	8	12	23	29	40	52
	総数に占める割合(累計)	0.0%	0.0%	1.0%	3.8%	7.7%	11.5%	22.1%	27.9%	38.5%	50.0%
学際・複合	学部数	2	2	5	1	5	5	11	4	8	4
	学部数(累計)	2	4	9	10	15	20	31	35	43	47
	総数に占める割合(累計)	2.6%	5.1%	11.5%	12.8%	19.2%	25.6%	39.7%	44.9%	55.1%	60.3%
理・工・理工	学部数	1	0	3	7	9	12	13	10	14	15
	学部数(累計)	1	1	4	11	20	32	45	55	69	84
	総数に占める割合(累計)	0.6%	0.6%	2.3%	6.3%	11.4%	18.2%	25.6%	31.3%	39.2%	47.7%
生活科学	学部数	0	0	0	2	1	4	3	5	9	11
	学部数(累計)	0	0	0	2	3	7	10	15	24	35
	総数に占める割合(累計)	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	3.4%	8.0%	11.5%	17.2%	27.6%	40.2%
芸術	学部数	1	0	3	0	4	4	14	15	8	6
	学部数(累計)	1	1	4	4	8	12	26	41	49	55
	総数に占める割合(累計)	1.4%	1.4%	5.7%	5.7%	11.4%	17.1%	37.1%	58.6%	70.0%	78.6%

この表と表 1（定員充足状況別学部数）を対応させるとわかるように、定員充足率 100%未満の学部数（362 学部）を超えるラインは、偏差値 46 以下である。偏差値 46 以下の学部が定員充足率 100%未満の学部であるわけでは必ずしもないにせよ、このラインを偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準と考えることができるだろう。

前節と同様に、表 7 の結果を専門分野別に示したのが表 8 である。なお、下段に示しているのは中段に示している値（学部数（累計））が、2015 年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」の当該カテゴリにおけるすべての私立大学の総学部数に占める割合である。

この表と表 2（定員充足状況別学部数（専門分野別））を対応させるとわかるように、定員充足率 100%未満の学部数を超えるラインは、カテゴリによって少なからず違いがある。すなわち、「法・経済・経営・商」系と「理・工・理工」系では偏差値 45 以下であるのに対し、「人文・外国語」系と「生活科学」系では偏差値 48 以下であり、残るカテゴリはこの間に位置している。先述のように、偏差値 46 以下というラインを偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準と考えることができるが、「法・経済・経営・商」系と「理・工・理工」系ではそのラインを少し引き下げる必要があるだろうし、「人文・外国語」系と「生活科学」系ではそのラインを少し引き上げる必要があるだろう。

4-2. 学生数

次に、偏差値別に学生数を示したのが表 9 である。なお前節と同様に、上段に示しているのは各区分に該当する学生数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する学生数を累計した学生数である（表 10 についても同様に表記）。また、下段に示しているのは中段に示している値（学生数（累計））が日本の大学の総学生数（昼間のみ、2,537,533 人）に占める割合である。

この表と表 3（定員充足状況別学生数）を対応させるとわかるように、定員充足率 100%未満の学部に所属する学生数（212,167 人）を超えるラインは、偏差値 46 以下である。前項と整合的な結果であるから、先述のように、このラインを偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準と

考えてよいようにも思われる。しかし、そうすると6万人以上多く見積もってしまうことになるため、特に学生を念頭に考える場合には、このラインを少し引き下げる必要があるだろう。

表 9 偏差値別学生数

	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
学生数	3,908	6,434	11,424	33,948	47,737	62,834	106,554	93,417	110,692	127,820
学生数(累計)	3,908	10,342	21,766	55,714	103,451	166,285	272,839	366,256	476,948	604,768
総数に占める割合(累計)	0.2%	0.4%	0.9%	2.2%	4.1%	6.6%	10.8%	14.4%	18.8%	23.8%

これまでと同様に、表9の結果を専門分野別に示したのが表10である。なお、下段に示しているのは中段に示している値(学生数(累計))が、2015年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」の当該カテゴリにおけるすべての私立大学の総学生数に占める割合である。

この表と表4(定員充足状況別学生数(専門分野別))を対応させるとわかるように、定員充足率100%未満の学部には所属する学生数を超えるラインは、カテゴリによって少なからず違いがある。すなわち、「法・経済・経営・商」系と「理・工・理工」系では偏差値45以下であるのに対し、「人文・外国語」系と「生活科学」系では偏差値48以下であり、残るカテゴリはこの間に位置している。ただし、このラインでは例えば、「法・経済・経営・商」系では2万人以上、「理・工・理工」系では1万人近く多く見積もってしまうことになるため、先述のように、特に学生を念頭に考える場合には、このラインを少し引き下げる必要があるだろう。

表 10 偏差値別学生数(専門分野別)

		40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
法・経済・経営・商	学生数	2,383	3,333	4,580	17,286	26,845	26,726	37,910	36,609	22,663	21,608
	学生数(累計)	2,383	5,716	10,296	27,582	54,427	81,153	119,063	155,672	178,335	199,943
	総数に占める割合(累計)	0.4%	1.0%	1.9%	5.0%	9.9%	14.7%	21.6%	28.2%	32.3%	36.2%
人文・外国語	学生数	0	1,842	152	2,642	1,410	7,719	17,246	6,659	20,195	30,376
	学生数(累計)	0	1,842	1,994	4,636	6,046	13,765	31,011	37,670	57,865	88,241
	総数に占める割合(累計)	0.0%	0.5%	0.5%	1.2%	1.6%	3.7%	8.3%	10.1%	15.5%	23.7%
社会・国際	学生数	6	685	1,261	3,628	5,566	3,826	14,624	11,515	10,695	12,621
	学生数(累計)	6	691	1,952	5,580	11,146	14,972	29,596	41,111	51,806	64,427
	総数に占める割合(累計)	0.0%	0.4%	1.2%	3.4%	6.8%	9.2%	18.1%	25.2%	31.7%	39.4%
教育・体育	学生数	0	0	385	739	1,336	1,095	7,234	6,653	13,875	8,165
	学生数(累計)	0	0	385	1,124	2,460	3,555	10,789	17,442	31,317	39,482
	総数に占める割合(累計)	0.0%	0.0%	0.4%	1.2%	2.6%	3.7%	11.4%	18.4%	33.0%	41.6%
学際・複合	学生数	876	574	2,310	1,555	2,431	4,382	8,750	3,668	7,184	5,267
	学生数(累計)	876	1,450	3,760	5,315	7,746	12,128	20,878	24,546	31,730	36,997
	総数に占める割合(累計)	1.1%	1.8%	4.6%	6.4%	9.4%	14.7%	25.3%	29.7%	38.4%	44.8%
理・工・理工	学生数	260	0	1,629	7,636	7,063	16,485	13,899	10,952	24,866	27,098
	学生数(累計)	260	260	1,889	9,525	16,588	33,073	46,972	57,924	82,790	109,888
	総数に占める割合(累計)	0.1%	0.1%	0.6%	3.1%	5.5%	10.9%	15.5%	19.1%	27.2%	36.1%
生活科学	学生数	0	0	0	462	891	1,357	2,932	3,507	6,339	11,816
	学生数(累計)	0	0	0	462	1,353	2,710	5,642	9,149	15,488	27,304
	総数に占める割合(累計)	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	1.7%	3.4%	7.0%	11.3%	19.2%	33.9%
芸術	学生数	383	0	1,107	0	2,195	1,244	7,303	13,854	8,641	10,869
	学生数(累計)	383	383	1,490	1,490	3,685	4,929	12,232	26,086	34,727	45,596
	総数に占める割合(累計)	0.5%	0.5%	2.0%	2.0%	5.1%	6.8%	16.8%	35.8%	47.6%	62.5%

4-3. 教員数

最後に、偏差値別に教員数を示したのが表11である。なお前節と同様に、上段に示しているのは各区分に該当する教員数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する教員数を累計した教員数である(表12についても同様に表記)。また、下段に示しているのは中段に示している値(教員数(累

計)) が日本の大学の総教員数(学部に所属する教員のみ、92,989人)に占める割合である。

この表と表5(定員充足状況別教員数)を対応させるとわかるように、定員充足率100%未満の学部
に所属する教員数(10,380人)を超えるラインは、偏差値46以下である。前項と同様、このライン
を偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準と考えると500人以上多く見積もって
しまうことになるため、学生だけでなく教員を念頭に考える場合にも、このラインを少し引き下げる
必要があるだろう。

表11 偏差値別教員数

	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
教員数	223	407	630	1,392	1,825	2,352	4,107	3,365	3,793	4,191
教員数(累計)	223	630	1,260	2,652	4,477	6,829	10,936	14,301	18,094	22,285
総数に占める割合(累計)	0.2%	0.7%	1.4%	2.9%	4.8%	7.3%	11.8%	15.4%	19.5%	24.0%

これまでと同様に、表11の結果を専門分野別に示したのが表12である。なお、下段に示している
のは中段に示している値(教員数(累計))が、2015年版の『大学ランキング』に掲載されている「入
試難易度ランキング」の当該カテゴリにおけるすべての私立大学の総教員数に占める割合である。

この表と表6(定員充足状況別教員数(専門分野別))を対応させるとわかるように、定員充足率
100%未満の学部
に所属する教員数を超えるラインは、カテゴリによって少なからず違いがある。す
なわち、「法・経済・経営・商」系と「理・工・理工」系では偏差値45以下であるのに対し、「人文・
外国語」系では偏差値48以下、「生活科学」系では偏差値49以下であり、残るカテゴリはこの間に
位置している。ただし、このラインでは例えば、「法・経済・経営・商」系では400人近く、「理・工・
理工」系では200人以上多く見積もってしまうことになるため、先述のように、学生だけでなく教員
を念頭に考える場合にも、このラインを少し引き下げる必要があるだろう。

表12 偏差値別教員数(専門分野別)

		40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
法・経済・経営・商	教員数	142	194	211	617	706	824	1,140	889	538	477
	教員数(累計)	142	336	547	1,164	1,870	2,694	3,834	4,723	5,261	5,738
	総数に占める割合(累計)	1.1%	2.7%	4.4%	9.3%	15.0%	21.6%	30.8%	37.9%	42.2%	46.1%
人文・外国語	教員数	0	121	19	144	71	335	798	347	845	1,025
	教員数(累計)	0	121	140	284	355	690	1,488	1,835	2,680	3,705
	総数に占める割合(累計)	0.0%	1.0%	1.2%	2.4%	3.0%	5.8%	12.5%	15.4%	22.5%	31.1%
社会・国際	教員数	7	50	87	158	285	157	624	511	396	412
	教員数(累計)	7	57	144	302	587	744	1,368	1,879	2,275	2,687
	総数に占める割合(累計)	0.1%	1.1%	2.7%	5.6%	11.0%	13.9%	25.5%	35.1%	42.5%	50.1%
教育・体育	教員数	0	0	15	52	97	63	318	241	458	329
	教員数(累計)	0	0	15	67	164	227	545	786	1,244	1,573
	総数に占める割合(累計)	0.0%	0.0%	0.4%	1.9%	4.6%	6.4%	15.4%	22.2%	35.2%	44.5%
学際・複合	教員数	41	42	118	28	119	184	324	141	244	146
	教員数(累計)	41	83	201	229	348	532	856	997	1,241	1,387
	総数に占める割合(累計)	1.5%	3.1%	7.6%	8.6%	13.1%	20.1%	32.3%	37.6%	46.8%	52.3%
理・工・理工	教員数	17	0	97	337	364	624	486	432	794	819
	教員数(累計)	17	17	114	451	815	1,439	1,925	2,357	3,151	3,970
	総数に占める割合(累計)	0.2%	0.2%	1.1%	4.3%	7.7%	13.6%	18.2%	22.3%	29.8%	37.5%
生活科学	教員数	0	0	0	56	33	74	127	147	277	512
	教員数(累計)	0	0	0	56	89	163	290	437	714	1,226
	総数に占める割合(累計)	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	2.9%	5.4%	9.6%	14.4%	23.6%	40.5%
芸術	教員数	16	0	83	0	150	91	388	657	379	471
	教員数(累計)	16	16	99	99	249	340	728	1,385	1,764	2,235
	総数に占める割合(累計)	0.5%	0.5%	3.1%	3.1%	7.8%	10.7%	22.9%	43.5%	55.5%	70.3%

(宇田響)

5. おわりに

本稿では、定員充足率や偏差値を手がかりとして、ボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模に関する基礎的情報を整理してきた。本稿で得られた主要な知見は以下の通りである。

第一に、定員充足率 100%未満の学部は 300 学部を大きく超えており、これは日本の大学の総学部数（昼間のみ）の 15%以上を占めていることが確認された。また、そこに所属する学生は 20 万人を、教員は 1 万人を超えており、これは日本の大学の総学生数（昼間のみ）／総教員数（学部には所属する教員のみ）の約 1 割を占めていることが確認された。

第二に、専門分野別にみると、定員充足率 100%未満の学部及びそこに所属する学生や教員が実数として多いのは、総じて「法・経済・経営・商」系であることが確認された。また、当該カテゴリにおける私立大学の総学部数／総学生数／総教員数に占める割合が高いのは、総じて「芸術」系や「社会・国際」系であることが確認された。

第三に、定員充足率 100%未満の学部数を超えるラインは偏差値 46 以下であることから、このラインを偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準と考えることができることが確認された。また、学生数や教員数でみても同様の結果が得られたが、学生や教員を念頭に考える場合には、このラインを少し引き下げる必要があることが確認された。

第四に、専門分野別にみると、定員充足率 100%未満の学部数／学生数／教員数を超えるラインは少なからず違いがあることが確認された。すなわち、「法・経済・経営・商」系と「理・工・理工」系では偏差値 45 以下であるのに対し、「人文・外国語」系と「生活科学」系では総じて偏差値 48 以下であり、残るカテゴリはこの間に位置していることが確認された。

本稿で得られたこれらの知見は、基礎的情報すら明確には把握されていなかった現状においては、今後のボーダーフリー大学研究に資する重要な知見であるといえるだろう。特にボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員を対象に質問紙調査を行う場合には、サンプリング等を行う際に考慮すべき重要な知見となるのは間違いない。

ただし、留意しておかなければならないのは、本稿の第 4 節で用いた偏差値は、先述のように、2015 年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」に基づくものであるのだが、それと 2016 年版のそれとは大きく異なっているという点である。すなわち、2015 年版までのそれは代々木ゼミナールから得たデータを用いて作成されていたのだが、2016 年版のそれは河合塾から得たデータを用いて作成されているため、値が大きく異なっているのである。具体的には、2015 年版までのそれにはいずれの学部にも偏差値が付されていたのだが、2016 年版のそれには「ボーダー・フリーの大学・学部」（合格率 50%となるラインがどの偏差値帯においても存在しない大学・学部と定義されている）には偏差値が付されていない。また、2016 年版で付された偏差値は 2015 年版までに付された偏差値よりもかなり低い値となっている¹⁶⁾。例えば、本稿で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準として考えた偏差値 46 が付された学部は、平均で 8 ポイントほど低い値となっているため、2016 年版では偏差値 38 程度が付されているものと考えられる。2016 年版以降の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」と比較参照する際には、こうした点に十分留意しておかなければならない。

（葛城浩一）

注

- 1) これは本稿の定義である。「ボーダーフリー大学」という用語自体は、そもそも河合塾による大学の格付けにおいて、通常の入試難易度がつけられない大学の意味で用いられている。
- 2) 『大学ランキング』に在籍学生数を掲載していない学部も散見されるが、そうした学部についてはまず、2016年版の『大学ランキング』を参照し、そこに掲載されている場合にはその値を用いることとし、そこに掲載されていない場合には当該大学・学部のホームページを参照し、そこに挙げられている値を用いることとした。
- 3) 本稿で分析対象とする2012年版の『大学ランキング』で「医・歯・薬・看護・保健」及び「農・水産」以外のカテゴリに掲載されている私立大学の学部でいえば、193学部がこれに該当する。これは第3節の分析対象（1,190学部）の16.2%にあたり、決して小さな割合ではない。なお、ここ数年で情報公開が飛躍的に進んでいるため、2015年版の『大学ランキング』でこれに該当するのは41学部と随分少なくなっている。この程度であれば、ある特定の年度の入学定員数をその年度の入学者数で除するという算出方法の方がより適当であるとも判断できそうである。しかし、依然として入学者数を掲載していない学部こそ、定員充足率が低いのではないかと推察されるため、やはりこうした算出方法は、本稿の趣旨に照らせば現時点では適当ではないと考える。
- 4) 例えば、日本薬科大学薬学部は、6年制の薬学科と4年制の医療ビジネス薬学科で構成されている。
- 5) 例えば、2015年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」において、東京大学は特定の学部の入学定員数ではなく、「文科一類」「文科二類」「文科三類」「理科一類」「理科二類」「理科三類」という分類で入学定員数が示されている。
- 6) 2015年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」において、複数のカテゴリに掲載されている大学・学部（鹿児島国際大学・国際文化学部、京都女子大学・発達教育学部、近畿大学・文芸学部、至学館大学・健康科学学部、津田塾大学・学芸学部、東海大学・教養学部、東京女子大学・現代教養学部、同志社大学・学芸学部、日本大学・文理学部、宮城学院女子大学・学芸学部）は、全体の分析では一つの学部としてカウントしているが、専門分野別の分析では専門分野ごとにカウントしている。そのため、全体の分析で分析対象となるのは1,190学部であるが、専門分野別の分析で分析対象となるのは1,201学部となる。
- 7) 2015年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」において、複数のカテゴリに掲載されている大学・学部（鹿児島国際大学・国際文化学部、札幌大学・地域共創学群、宮城学院女子大学・学芸学部）は、全体の分析では一つの学部としてカウントしているが、専門分野別の分析では専門分野ごとにカウントしている。そのため、全体の分析で分析対象となるのは675学部であるが、専門分野別の分析で分析対象となるのは678学部となる。
- 8) 日本の大学の総学部数（昼間のみ）は、文部科学省『平成26年度 学校基本調査報告書（高等教育機関編）』に掲載されている平成25年度の値（昼間）を用いている。次節の偏差値別学部数の分析においても同様である。
- 9) 日本私立学校振興・共済事業団広報（2012）によれば、平成24年度の定員充足率50%未満の私立大学の割合は3.1%である。これと比べて本稿の値が低いのは、大学レベルでの算出か、学部レベルでの算出か、という算出レベルの違いはもとより、先述のように、本稿の算出方法では編入学の学生が考慮されないため、定員充足率を実態よりも高く見積もってしまっていることが関

係していると考えられる。

- 10) ここで用いる値は、文部科学省『平成 26 年度 学校基本調査報告書（高等教育機関編）』に掲載されている平成 25 年度の値（昼間）とは一致していない。次節の偏差値別学部数の分析においても同様である。
- 11) 日本の大学の総学生数（昼間のみ）は、文部科学省『平成 26 年度 学校基本調査報告書（高等教育機関編）』に掲載されている平成 25 年度の値（昼間：学部）を用いている。次節の偏差値別学生数の分析においても同様である。
- 12) ここで用いる値は、文部科学省『平成 26 年度 学校基本調査報告書（高等教育機関編）』に掲載されている平成 25 年度の値（昼間：学部）とは一致していない。次節の偏差値別学生数の分析においても同様である。
- 13) 日本の大学の総教員数（学部に所属する教員のみ）は、文部科学省『平成 25 年度 学校教員統計調査報告書』の「閲覧公表」として公表されている「年齢別 職名別 性別 本務教員数（学部・大学院）」のうち、「学部（計）」の平成 25 年度の値（本務教員のうち、教授、准教授、講師の合計）を用いている。次節の偏差値別教員数の分析においても同様である。なお、『大学ランキング』に掲載されている学部教員数は、専任の講師以上の教員数であるが、講師職を廃止した一部の大学については助教以上の教員数である。
- 14) ここで用いる値は、文部科学省『平成 25 年度 学校教員統計調査報告書』の「閲覧公表」として公表されている「年齢別 職名別 性別 本務教員数（学部・大学院）」のうち、「学部（計）」の平成 25 年度の値（本務教員のうち、教授、准教授、講師の合計）とは一致していない。次節の偏差値別教員数の分析においても同様である。
- 15) 定員充足率と偏差値との相関関係を分析した結果、相関係数は 0.545 であった。この結果からも、定員充足率と偏差値が高い相関関係にあることがわかるが、相関係数が 1 でないことから明らかに、定員充足率は高くても偏差値は低い学部や、定員充足率は低くても偏差値は高い学部は、当然のことながら存在する。定員充足率と偏差値との対応関係を表 13 に示しておく。
- 16) 2015 年版で付された偏差値と 2016 年版で付された偏差値との対応関係を示しているのが表 14 である。この表では私立大学について、2015 年版で付された偏差値に比べて、2016 年版で付された偏差値がどの程度低い値になっているのか、その平均値を 2015 年版で付された偏差値帯別に示している。

表 13 定員充足率と偏差値との対応関係

		偏差値										合計
		40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	
定員充足率	50%未満	1 0.2%	1 0.2%	2 0.3%	2 0.3%	3 0.5%	1 0.2%	5 0.8%	2 0.3%	1 0.2%	1 0.2%	19 3.1%
	50%以上-75%未満	5 0.8%	9 1.5%	11 1.8%	11 1.8%	12 1.9%	22 3.6%	34 5.5%	17 2.8%	18 2.9%	5 0.8%	144 23.4%
	75%以上-100%未満	2 0.3%	2 0.3%	5 0.8%	13 2.1%	20 3.2%	29 4.7%	40 6.5%	24 3.9%	27 4.4%	17 2.8%	179 29.1%
	100%以上-125%未満	1 0.2%	1 0.2%	3 0.5%	11 1.8%	21 3.4%	20 3.2%	41 6.7%	44 7.1%	47 7.6%	65 10.6%	254 41.2%
	125%以上	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.3%	3 0.5%	3 0.5%	11 1.8%	20 3.2%
	合計	9 1.5%	13 2.1%	21 3.4%	38 6.2%	56 9.1%	72 11.7%	122 19.8%	90 14.6%	96 15.6%	99 16.1%	616 100.0%

注：上段は実数、下段は全体に占める割合。

表 14 2015 年版で付された偏差値と 2016 年版で付された偏差値との対応関係

		偏差値										
		全体	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
専門分野	法・経済・経営・商	-7.3	-2.6	-3.6	-4.6	-5.6	-6.6	-7.4	-8.6	-9.3	-8.8	-9.3
	人文・外国語	-8.2	-	-3.6	-	-5.6	-6.6	-7.6	-8.6	-9.6	-9.7	-9.8
	社会・国際	-7.6	-2.6	-3.5	-4.6	-5.6	-6.6	-7.6	-8.6	-8.7	-9.8	-10.1
	教育・体育	-7.8	-	-	-4.6	-5.5	-5.7	-7.5	-8.1	-8.3	-9.0	-9.7
	学際・複合	-7.3	-2.6	-	-4.6	-5.6	-6.6	-7.6	-8.6	-9.6	-10.0	-9.6
	理・工・理工	-7.4	-2.6	-	-4.6	-5.6	-6.6	-7.6	-8.1	-9.0	-10.0	-8.8
	農・水産	-8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	医・歯・薬・看護・保健	-7.3	-	-	-	-3.0	-6.6	-6.3	-7.1	-8.5	-8.0	-8.9
	生活科学	-9.4	-	-	-	-5.6	-	-7.6	-8.5	-8.9	-10.2	-10.8
	芸術	-8.7	-2.5	-	-4.6	-	-6.6	-7.6	-8.6	-9.3	-8.7	-10.7
	合計	-7.7	-2.6	-3.6	-4.6	-5.5	-6.5	-7.4	-8.3	-9.0	-9.2	-9.6

参考文献

- 朝日新聞出版（2011）『2012 年版大学ランキング』朝日新聞出版。
- 朝日新聞出版（2012）『2013 年版大学ランキング』朝日新聞出版。
- 朝日新聞出版（2013）『2014 年版大学ランキング』朝日新聞出版。
- 朝日新聞出版（2014）『2015 年版大学ランキング』朝日新聞出版。
- 朝日新聞出版（2015）『2016 年版大学ランキング』朝日新聞出版。
- 日本私立学校振興・共済事業団広報（2012）「平成二十四年度私立大学・短期大学等入学志願動向」『月報私学』Vol. 177、6－7 頁。
- 文部科学省（2014）『平成 26 年度 学校基本調査報告書（高等教育機関編）』。
- 文部科学省（2015）『平成 25 年度 学校教員統計調査報告書』。
- 文部科学省（2015）『平成 25 年度 学校教員統計調査』、「年齢別 職名別 性別 本務教員数（学部・大学院）」(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001058828&cyclo=0>)（閲覧日：2015 年 12 月 18 日）。
- 山田浩之（2009）「ボーダーフリー大学における学生調査の意義と課題」広島大学大学院教育学研究科編『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部第 58 号、27-35 頁。